

学校名	新座市立新開小学校
実施日	令和4年1月17日

<記入の仕方> ○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「独自」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、「どの子どもみんなの一分の一」として、一人一人の児童に最適な支援をする学校づくりに向け、教職員が一丸となって取り組んでいる。	B	校長のリーダーシップのもと、個に応じた支援や複数の教職員での対応等、誰一人とりこぼさない取組をしている。また、学年間での情報共有や担任外の教職員との連携等、チーム一丸となってそれぞれの児童への対応もできている。1年1組については、もっと早く情報共有し、対応できなかったかと悔やまれるところがある。	A	「どの子ども一分の一」の方針に沿った教職員の取組は評価できる。特にコロナ禍の中において、他校では中止する中、行事をすべて行えたことは素晴らしい。悩んでしまった教員については、本人は十二分に努力していたことを高く評価する。また、今後に向けて(再発防止のため)教職員、学校関係者で支援する方法を考えていく必要がある。
2	学校は、授業をはじめとした様々な場面において、ICT機器を積極的に活用して、指導している。	A	分散登校によるオンライン授業をきっかけに、授業におけるICTの活用が進み、意欲的に学ぶ児童の姿も多く見られるようになっている。ICTが得意な教員による校内研修の実施により、教員全体のICTスキルも上がりつつあるが、まだ教員によって活用に差があるのも事実である。今後は、より効果的な校内研修の実施とPC補佐員の有効活用等により、ICTの更なる活用を進め、児童の主体性を育てていく。	A	コロナ禍の中において、ICTの活用は更に進んだ様子が見えてくる。一方、業務多忙な中にある教員方であると察するが、ICTの全体的なスキルアップにも期待したい。
3	学校は、子供たちの自己指導能力の育成を目指して、予防的、積極的な生徒指導の機能を生かした学級経営や学習指導に努めている。	B	昨年度まで新座市から委嘱を受け、研究を進めてきた「自己指導能力の育成」を更に図るため、先を見通し、子供たちに自己決定の場を与え、自己存在感を育み、積極的な生徒指導の機能を生かした学級経営や学習指導に努めている。ただ、自己指導能力に対する考え方に教員間でずれが見られるため、共通理解・共通行動が図れていないところもある。今後、教員間での考え方のすり合わせが必要である。	B	「自己指導能力に対する考え方」について、教員間で共通理解を深める努力をお願いしたい。

評価項目「組織運営」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	B	分掌会議を定期的実施するなどし、各校務分掌の主任が担当する教科・領域等について、積極的にリーダーシップを発揮できるよう促している。主任を中心に、組織で対応する協働体制が確立している分掌が多いが、主任に負担がかかりすぎている分掌もあるので、管理職は配慮が必要である。	B	前年度も同様の自己評価についての説明があったが、主任への考慮するための「分掌の見直し」の必要性を感じる。
5	学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて、PDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	B	学校評価(年2回の自己評価と年1回の学校関係者評価)の結果から、現状及び課題を把握し、各分掌会議でその改善策を検討している。また、校長自ら率先して教職員から意見を吸い上げ、案を示している。	B	改善策の検討(A)が、次のPDCAに確実につながっていくことを期待する。また、「校長自ら案を示す」とあるが、各教員の自発性・積極性にも期待する。

6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	昨年度「危機管理マニュアル」を更新したところである。見直した内容については、全教員にわかるよう研修等を通じて周知していく。また、「危機管理マニュアル」をすぐに確認できる場所に保管する等、素早く対応できる環境づくりにも努めていく。	B	昨年度更新した「危機管理マニュアル」について、引き続き周知に努めてもらいたい。特に、不審者対応については、校外周辺の見回り確認など、教員の積極的な対応を望むものである。
---	--	---	--	---	--

評価項目「学力向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	B	「授業のこころえ」を作成し、全教員が共通理解のもと授業を進めることができるようにしており、多くの学級の子供たちは落ち着いて授業を受けられている。しかし、学級によって指導にばらつきがあるところもある。今後、学力向上に向け、学習ルールの更なる定着を図っていく。	B	定めた「学習ルール」に沿った指導が定着されるよう努力をお願いしたい。
8	学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	B	すべての教科を通じて言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。特に、最近ではタブレット端末を活用して効果的な対話的な学びを推進しているところである。	A	今後も更なる育成に努めていただきたい。
9	学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	B	学習指導要領や県編成要領をもとに本校の実態に合わせて年間指導計画を作成し、それに基づいて日々の授業を行っている。学力調査の結果からすると、より効果的な学習指導を検討していかなければならない。	A	コロナ禍の中にあっても、ICT活用による授業展開など、教員の努力がうかがえる。より効果的な学習指導の検討と実施にも期待したい。
10	学校は、英語(英会話)の授業の充実を図るなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努めている。	B	英語専科教員及び英語講師を中心に、各担任も協力して、活発な授業が展開されている。しかし、昨年度より、低学年や特別支援学級は35時間から10時間に年間時数が削減され、定着度が低下している現実もある。ICTを積極活用するなどして改善していく。	A	子どもたちは、楽しんで授業を受けているようで、何よりである。ICTの活用による定着率のアップに期待する。

評価項目「豊かな心の育成」

No.2

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができるよう指導し、成果をあげている。	B	あいさつ、言葉遣いについては、生徒指導部を中心に全教職員で指導している。また、PTAと共にあいさつ運動を行うなど、保護者とも連携した指導も行っている。しかし、例年と同様、あいさつ、言葉遣いのいずれにおいても、定着はしていない。児童の言葉を聞き流さず、丁寧に声掛けしていくことを継続していく。	B	あいさつ、言葉遣いについては、まずは家庭での教育が基本であり、大事なことであるため、効果的な家庭教育が行われるよう学校側が工夫し、発信していくことをお願いしたい。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	B	月1回実施されている生活アンケートにより、いじめ等の早期発見に努めている。また、被害者意識を優先して積極的に認知することでいじめが深刻化する前に対応できている。また、自己存在感を与え、共感的な人間関係を育成する学級経営を進めることで、全ての児童にとって居心地のよい環境づくりを目指している。	B	いじめについては、早期発見・早期対応が肝要である。いじめのない学級環境を整えるべく努力をお願いする。
13	学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	B	児童の規律意識向上を図るため、生徒指導部を中心に率先垂範を心掛け、日々指導にあたっている。しかし、教員によっては児童との距離が近く、馴れ合いの関係になってしまっている。あくまで教員と児童という立場であることを理解し、適切な指導を行っていく。	B	教員と児童の距離感、信頼関係を適切に保ち、教員側が立場を見極め、適切な規律意識向上のための指導を行っていただきたい。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	B	コロナ禍で様々な活動が制限される中、週1回のラジオ体操の実施や体育集会でのなわとびの推進等、できる範囲で計画的に体力向上策が講じられている。休み時間に児童と共に外で遊ぶ教員が多く、そうした地道な取組が体力向上にも寄与している。	A	コロナ禍の中にあっても、様々な体力向上策が講じられていること、休み時間に教員が校庭で児童と遊ぶことは児童、教員、相互に良い作用につながり、望ましいことである。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	B	高学年では家庭科、その他の学年では保健の授業等を通して、食に関する正しい知識や望ましい食習慣、健康管理について指導している。また、和食献立月間(11月)を設け、和食を通して食への興味・関心を喚起することで、喫食率の向上を目指している。	A	四季や行事に合わせた給食献立の考案や献立表の作り方、放送による献立の説明など、身体を作る上で大切な「食」、健康教育の取組への熱意を感じる。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	B	年2回の保護者アンケートやPTA運営委員会において、保護者から寄せられたご意見やご質問、年4回の学校運営協議会における各運営協議会委員の皆様からの率直なご意見を、適宜学校運営に生かしている。	A	各方面から寄せられた意見を学校運営に反映させることで、よりよく、より豊かな学校に発展していくものと期待する。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	毎月発行している学校だよりや校長を中心に週1回更新している学校ホームページにより、各種教育活動の様子について積極的に情報公開している。また、学校の様子については、児童(情報委員会)からも、ホームページ上で公開している。	A	教育活動について、ICTを駆使し、積極的に情報公開していることはよいが、一方で、保護者への紙ベースでの情報提供(学級通信など)も引き続き必要であると感じる。
18	学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。	B	コロナの影響によりできなかったものもあるが、学校応援団コーディネーターのご尽力により、給食配膳補助やミシン実習、プランターの花植えなどの活動をしていただいた。お陰で、校内環境が美しく保たれ、学校の教育活動が円滑に進められた。	A	学校応援団の尽力に感謝する。また、更なる地域、保護者の参画に期待する。